

キ薄片六アリテ、カサナリツ、ケリ、蝦ノ腹ノ薄片ノ如ニシテ大ナリ、腰ニツギメアリテ、テフツガヒノ如ク折レカ、ミ自由ナリ、尻ノ方ノメグリニ長キ刺多シ、形大ナレドモ肉少ナシ、人食セズ、海邊往々有之、其甲ハ蟹ノ如ク圓シ、又蟹ノ甲ニ似タリ、魚ノ類ニアラズ、鼈蟹ノ類ナリ、略ハ用テ舟ノ中ノ水ヲクム、尾長シ、尾ノ末用テ、燈心ノ杖トス、其口足尾トモニ人ヲ傷ラズ、雌ハ雄ヲ負テ海ニ入ル、

〔重修本草綱目啓蒙三十一〕

蟹魚

カブトガニ丹後

カブリガニ

ウンキウ筑前

ウンキヤウ

防州

ハチガメ

オキナガニ

ウミドウガメ

ウミドン

カブトガニ同上

ハチガミ

防州

オキナガニ

ウミドウガメ

ウミドン

カブトガニ同上

ハチガミ

海産ナリ、四國九州ニ多シ、略中一説ニ蟹魚ヲ武文ガニト訓ジ、元弘ノ亂ニ、尊良親王ノ僕秦武文、

兵庫ノ湊ニ死ス、其靈化シテ之トナルノ俚言ヲ、本朝食鑑ニ載レドモ、コノ品攝州ニ産セザレバ、其説穩ナラズ、

蟹事蹟

〔古語拾遺〕天祖彥火尊、娉海神之女豐玉姬命、生彥瀲尊、誕育之日、海濱立室于時、掃守連遠祖天忍人命、供奉陪侍、作帚掃蟹、仍掌鋪設、遂以爲職、號曰蟹守、今俗謂之掃守者、彼詞之轉也。

〔日本靈異記中〕贖蟹蝦命放生得現報緣第八

置染臣鯛女者、奈良京富尼寺上座尼法邇之女也、道心純熟、初姪不犯、常勸採菜、一日不闕、奉供侍於行基大德、入山採菜見之、大蚶飲乎大蝦、詭大蚶曰、是蝦免我、不免猶飲、亦詭之曰、我作汝妻、故幸免吾、大蚶聞之高捧頭、而瞻女面、吐蝦而放、女期蚶曰、自今日經七日而來、然到期日、閉屋塞穴、堅身居內、誠如期來、以尾拍壁、女恐明日白於大德、大德住在生馬山寺、而告之言、汝不得免、唯堅受戒、乃全受持、三歸五戒、然還來道、不知老人以大蟹而逢、問之誰老、乞蟹免吾、老答我攝津國免原郡人、畫問邇麻呂年七十八、而无子息、活命无便、往於難波、偶得此蟹、但有期人、故汝不免、女脫衣贖、猶不免、可復脫裳贖、老